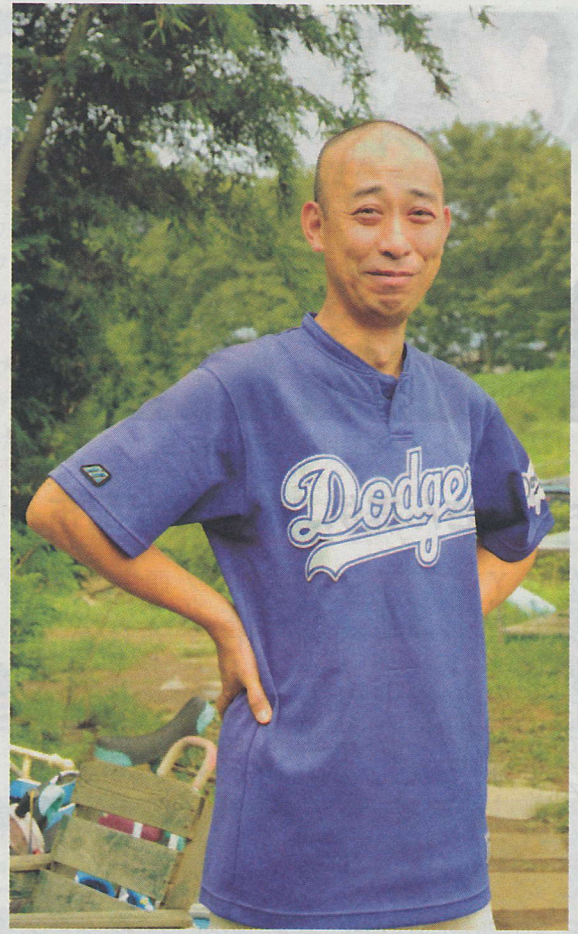
ヒューマン human vol.22

高橋 弘明さん

Takahashi Hiroaki

NPO法人「しぜん教育研究学園」理事長

子どもの感性 伸ばす場所を



館林市の緑豊かな場所にある「しぜん教育研究学園」は、約8000平方㍍の敷地に、鉄骨とビニールシートで作ったプール、自然農法を取り入れた畑、ポニーやヒツジの飼育場があり、30人の子どもたちが泥だらけで遊ぶ。土や緑、動物と触れ合う中で、自然との付き合い方や他者への思いやりを学んでいく。高橋弘明さんは、「失敗してもけがをしても、とにかく興味のあることを子どもにやらせてあげたい」と言う。勲章のような日焼け顔に、大きな目が優しく光る。

高橋さんは大学卒業後、理科の高校教師になった。つまらなそうな顔で学校に通う生徒たちが、実験では目を輝かせた。手作りの実験道具を次々に作り、授業に取り入れた。しかし、型にとらわれない授業をした結果、学校側との溝が深まり、2年で退職。実験道具は軽トラ2台分になっていた。

いくつかの学校を回った末、「学校を作りたい」と思い立ったが、必要経費は2億円。NPO法人の設立環境が整備される中、NPOとして立ち上げ、学童保育をスタートさせた。外部の専門家を招いてユニークな授業をする「サマースクール夏の分校」は恒例行事となり、県外からも子どもが集まるほど評判を呼んでいる。近く建設されるかやぶき屋根の学舎は、おがくずで汚物を分解するバイオトイレと、自家発電のための太陽光パネルを設置する。

「危ないからと言って、子どもが乗り越えなければならない障害を取り除く親が多いけれど、それを安全に使う方法を教えるのが大人の役割。『親は汗ではなく、冷や汗をかけ』。手を出さずに見守る大切さを自らの行動で伝えている。

プロフィル

館林市成島町にあるNPO法人「しぜん教育研究学園」理事長。大学卒業後、栃木県の高校教員を経て、大学に戻り再勉強。イギリスにある日本人学校の教員を2年務め、帰国後、長距離トラック運転手などを経験し、2001年、「しぜん教育研究学園」設立。館林市在住、41歳